ソフトバンク

生保代理店業務品質項目達成を支援
セキュリティー項目をコンサル

ソフトバンクは、生命保険協会の代理店業務品質評価運営の認定取得に向けて代理店を支援する取り組みを開始した。認定取得に必要な「顧客対応」「アフターフォロー」「個人情報保護」「ガバナンス」の項目の中で特に個人情報保護に関して課題を抱えている保険会社や保険代理店に対して同社の強みを生かしコンサルティングを行う。その後、同社が展開している幅広いセキュリティーサービスの中から顧客に最適なサービスをピックアップして、低コストで提供していく。まずは一般社団法人保険健全化推進機構「結心会」（上野直昭会長）を通じて、会員代理店のサポートから開始していく考えだ。

生命保険協会の代理店業務品質評価運営の中にある基本項目111～123、応用項目124～125の個人情報に関する項目の達成には、資産管理やウイルス対策、メール誤送信予防といった「セキュリティ環境の強化」が必須となっている。

一方で、保険代理店は、コストやツール・デバイスの選定、運用・教育といった多くの課題を抱えていることから、セキュリティーの導入・対策が進んでいないのが現状だ。

ソフトバンクは、電気通信事業者の強みを生かし、業務品質評価運営の認定を目指す代理店に対して、総合的なICTコンサルティングを実施し

課題解決して認定目指す代理店の増加に期待

具体的には、携帯電話や固定回線のコストを下げることの他、メールのセキュリティーやパソコン・携帯電話の管理、ウイルス対策といった提案を行う。また、セキュリティー関連以外にも、中小企業の顧客にも導入しやすく使いやすいコミュニケーションツールといったソリューションも提案していく。

結心会ではこうした対策について、認定を受けている会員代理店が取得を目指す代理店にアドバンクは、まずは評価認定取得を目指しセキュリティー関連に課題を抱える代理店を結心会を通じて紹介してもらい、実績を積み重ねていく。また、結心会の定例会など多くの代理店が集まるイベントなどに積極的に参加して説明する機会を増やし、取り組みを周知させていきたい考えだ。

ソフトバンクビジネスソリューション本部の担当者は、「業務品質評価認定取得にむけて苦労している代理店が一番必要としているソリューションを提供したいという思いが強い。商品を販売することを目的にした取り組みではなく、あくまで困りごとを解決するために支援していきたい」と強調する。

上野氏は、「業務品質評価運営は、あくまでも顧客のためのものだ。個人情報保護の強化を含めて、代理店が生き残るためには、業務品質評価運営認定は必須だ。評価項目の中で、達成が一番難しいと言われるセキュリティ項目について、知名度も技術も高いソフトバンクが強力に支援してくれることで、認定代理店が当たり前のように全国各地にできることを期待している」と述べている。

取り組みを進めるビジネスソリューション本部のメンバー

MOTERのブース

金融機関窓販

■PGF生命
11月1日から三菱UFJモルガン・スタンレー証券で、「まごころつながる終身保険2（正式名称：積立利率市場連動型一時払終身保険（保障選択型）、米国ドル建積立利率更改型一時払終身保険（保障選択型））」の販売を開始。

11月1日から静岡銀行と名古屋銀行で、2024年2月1日から山梨中央銀行で、「そだてる果実（正式名称：米国ドル建個人年金保険（指数連動・上限率設定型））」の販売を開始。同商品は、「静岡・山梨アライアンス」「静岡・名古屋アライアンス」の一環として取り扱う。

■T&Dフィナンシャル生命
11月6日から埼玉縣信用金庫で「ファイブテン・ワールド3（正式名称：無配当介護認知症保障型個人年金保険（通貨選択・I型）／無配当外国為替連動型個人年金保険（通貨選択・II型））」の販売を開始。

あいおいニッセイ同和損保の米国子会社

ドイツの見本市「IAA MOBILITY」

保険ソフトウエア「MOTER」展示

あいおいニッセイ同和損保の米国子会社MOTER Technologies, Inc.（以下、MOTER社）は、9月5日から8日にかけてドイツ・ミュンヘンで開催された世界5大モーターショーの一つで欧州最大の見本市である「IAA MOBILITY」で、保険ソフトウエアを展示した。

「MOTER」を展示した。

IAA MOBILITYは2年に一度、ミュンヘンで開催されており、MOTERの協業パートナーであるAWS（アマゾンウェブサービス）がメインスポンサーとして同イベントを運営している。今回は、世界各国から70社超の自動車メーカーを含め、モビリティ、スマートシティ、新たなデジタルサービスなど幅広い分野の企業約700社が出展した。

「MOTER」は、エッジコンピューティング技術（注）およびデータサイエンス・AIを活用し、膨大なデータをリアルタイムで処理することが可能な保険ソフトウエア。自動運転社会の到来に伴い保険のあり方が変容する中、保険ソフトウエア「MOTER」の活用によって、より適正な保険料の設定やサービスの提供を目指している。

MOTER社は、保険ソフトウエアを自動車メーカー車載器に標準搭載することを目指しており、これまでラスベガスで開催されている世界最大のテクノロジー見本市「CES2023」への出展等を通じて、日系自動車メーカーを中心に協業を拡大してきた。

今回、日系自動車メーカーだけではなく、新たに欧州系自動車メーカーとの関係性構築を目的として、世界的なモーターショーの一つである同イベントに参加した。

今回、MOTER社はAWSブース内でMOTERソフトウエアのプロモーションを実施し、100社超の企業が訪れた。AudiやMercedes、VW、BMW等とも接点を持つことができ、欧州系自動車メーカーとの関係性構築へとつなげることができたとしている。

近年、自動車業界をはじめ、多くの業界でソフトウエアを重視する動きは加速し、MOTERの戦略的意義は強まっており、今後もこれまで獲得した自動車メーカーとの接点を軸にMOTERソフトウエアの自動車メーカーへの標準装備、また、次世代型テレマティクス保険の開発に向けて取り組みを推進していくとともに、MOTERのノウハウ・経験をグローバルに展開していくとしている。

あいおいニッセイ同和損保の山口充専務執行役員は、「MOTERは、AWSから保険パートナーとして正式に指名を受けており、これまで協業パートナーとしてCES2023に出展、また、AWSの推薦で次世代車向けソフトウエアプロジェクト「SOAFEE」に参画し、プレゼンスを拡大してきた。そして今回、AWSからの強い要請を受けてIAA MOBILITYへの出展が実現したことは、当社の新たな挑戦である米国での保険ソフトウエア開発の有用性がAWSに認められたということであり、大変意義深いことだと思う。今後もAWSとの共同での搭載先自動車メーカー開拓を中心に協業を深化させ、保険業界の『ゲームチェンジャー』となることを目指して取り組みを加速させていく」とコメントしている。

（注）IoT端末などのデバイスそのものでデータ処理・分析を行う複数のコンピュータを利用した計算処理の概念。